

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	耿 瑞
題 目	水産物の輸出拡大と産地の構造変化に関する研究 ～ナマコ対中国輸出の現状とその課題～ A Study on Export Expansion of Fishery Products and Structural Transformation of Production area (The Present Status and Problems of Export of Sea Cucumber to China)
<p>海外市場の拡大と日本市場の購買力低下という条件下において、多様な水産物が海外に市場を発見しようとしている。これまで関連性を持ち得なかった国内産地と海外市場が国際的な流通を介して結びつくというグローバリゼーションの新たな展開は、どのような構造によりもたらされ、また沿岸漁業にどのような構造変化をもたらすものであろうか。</p> <p>本研究では上記の問題意識に接近するため、輸出拡大が典型的に見られるナマコ対中国輸出を事例として取りあげ、生産から消費までの実態分析をグローバルな視点から行った。</p> <p>本研究では、第1に、世界全体の水産物需給状況を統計資料の解析により整理し、そこにおける日本と中国の位置を明らかにした。第2に、日本と中国の水産物貿易の現状と問題点を整理し、そこにおけるナマコの位置付けを明らかにした。第3に、中国国内のナマコ加工産業について企業行動を軸とした実態分析を行い、その発展の論理を明らかにした。そこでは厳しい企業間競争と活発な商品開発・販売促進活動が見られ、市場拡大の原動力となっていることを明らかにした。第4に、そうした中国における活発な企業活動がもたらしたナマコの市場拡大が、グローバル経済を経由して日本の沿岸漁業にどのような影響をもたらしているのか、を実態分析によって明らかにした。国内産地では輸出対応が強化され、その結果資源の合理的利用と持続的経営が損なわれている状況が確認された。</p> <p>以上の分析結果から導かれる本研究の結論は次の3点である。第1に、中国ナマコ市場の拡大は、単純にマクロ経済動向だけから規定されているのではなく、加工企業の利益追求行動や競争戦略などこれまでの中国企業には見られなかった爆発的な資本主義的企業行動が重要な要因の一つとなっている。こうした中国加工企業の利益追求活動が、積極的な原料調達行動を通して日本の沿岸漁業に構造変化をもたらし、資源利用のあり方にも影響を与えている。第2に、グローバリゼーションが深化し、ローカルな資源利用を経営基盤としてきた日本の沿岸漁業までが、国際市場を対象とした生産活動に傾斜していく状況においては、日本国内からでは把握しにくい新しい不安定性がもたらされている。その不安定性を消去するなんらかのリスク管理策を講じる必要がある。また水産資源利用の適正化と沿岸漁業の持続的展開を実現するためには、輸出市場拡大を視野に入れた迅速かつ柔軟な公的資源管理規制の適用が必要となる。第3に、こうしたグローバリゼーションの深化によって不安定性が高まっている状況は一般化しつつある。海外市場とそこにおける企業活動によって漁獲物の多くを価値実現している沿岸漁業は今や枚挙に暇がない。今後も日本の沿岸漁業の持続的展開と適切な資源利用という公益目標を実現していく上では、海外市場動向を規定するこれら海外企業の個別的企業行動を注視していく必要がある。</p>	

学 位 論 文 要 旨

氏 名

GENG Rui

題 目

A Study on Export Expansion of Fishery Products and
Structural Transformation of Production area
The Present Status and Problems of Export of Sea Cucumber to China
(水産物の輸出拡大と産地の構造変化に関する研究～ナマコ対中国輸出の現状とその課題～)

Recently, the diverse fishery products are exported from Japan under conditions that overseas market expands, while Japanese purchasing power of fishery products is decreasing. The new globalization where the local production area in Japan connects the global market through the export will be brought by some kinds of structure; in addition will bring some kind of structural change to coastal fisheries? In this study, In order to approach to the above-mentioned research question, the actual condition analysis is conducted regarding a sea cucumber export to China where you can see export expansion typically.

In this study, Firstly, fishery products demand and supply circumstance of the whole world was rearranged with the analysis of the statistical data, and clarified the Japanese market and Chinese market in their position in the world. Secondly, this study showed the present status and problems of the fishery products export in Japan and China, and also showed the present condition of sea cucumber export between their countries. Thirdly, this study conducted the actual condition analysis sea cucumber processing industry, mainly the behavior of the enterprises and revealed that its logic of the development. There was stiff competition between enterprises and active commodity development and sales promotion, it showed that those become motive force of market expansion. Fourth, it is clarified that some kind of influence is brought to the Japanese coastal fisheries by the market expansion of sea cucumber, which the active enterprise behavior in China brings. At the production area in Japan, it was very well organized to promote exports, as a result, The circumstance where rational utilization and the continuous management of the resource are impaired was verified.

In conclusion, Firstly, expansion of the Chinese sea cucumber market is not that is brought simply from just macro economic performance. At former Chinese enterprise the explosive capitalism corporate activity which was not seen, has become with one of the important primary factor of enlargement of the Chinese sea cucumber market. Profit pursuit activity of the Chinese processing enterprise, brings structural transformation to the Japanese coastal fishing, and to also the way of resource utilization through raw materials supply.

Secondly, the new instability where, it is difficult to grasp in Japan is brought to the Japanese coastal fisheries, regarding the circumstance which inclines to the production which deals with the international market. It is necessary to devise a some risk management step which eliminates the instability. It is also needed that quick and soft application of public resource management regulation which inserted export market expansion in range of vision.

Thirdly, it is generalizing the circumstance where instability has increased with deepening such globalization. It is necessary to keep carefully observing the individual corporate activity which stipulate overseas market trend.

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏 名	耿 瑞
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 佐野 雅 昭
	副査 鹿児島大学 准教授 鳥居 享 司
	副査 鹿児島大学 教授 岩元 泉
	副査 鹿児島大学 教授 秋山 邦 裕
	副査 鹿児島大学 教授 佐久間 美 明
審査協力者	
題 目	水産物の輸出拡大と産地の構造変化に関する研究 ～ナマコ対中国輸出の現状とその課題～ A Study on Export Expansion of Fishery Products and Structural Transformation of Production area (The Present Status and Problems of Export of Sea Cucumber to China)
<p>本研究は、日本産ナマコの対中国輸出を事例として、近年あらゆる水産物の需給構造において深化しつつあるグローバル化の内実と、そうした新しい需給構造が日本の国内産地にもたらした変化を明らかにすることを目的として、調査と分析を進めたものである。</p> <p>本研究の特徴は以下の4点である。まず、本研究は日本の沿岸漁業及び中国水産物市場や企業行動の現実について、実態調査で得た一次資料に基づき分析を行っている。特に中国企業の行動実態はこれまで明らかにされてこなかったものであり、ここで示された情報やその分析結果は希少なものとなっている。次に、本研究ではグローバル化を経済活動の枠組みとして捉えるのではなく、そこで活動する企業など各経済主体の行動変化と捉えて分析を行っている。こうした発想に基づく分析アプローチは、既存研究にはないユニークなものである。また同時に、これまで水産物需給におけるグローバル化に関する研究は日本から見た輸入問題として捉えられることが多かった。しかし本研究では「国産品輸出」という全く逆の現象を捉え、研究対象とした。よりグローバル化の本質を衝くものであろう。さらに、本研究では輸入側と輸出側の双方において調査・分析を行い、その関係性を重視したフードシステムの視点を重視した。水産物需給を国際縦断的に分析した研究は希少である。このように本研究が志向する分析視点とその方法は新規性、独自性が強いものである。</p>	

このような独自の視角による分析により、本研究は以下のことを明らかにした。第1に、世界全体の水産物需給状況を整理し、そこにおいて中国が輸入国として日本を凌駕する存在となっていること、特にナマコについては近年中国が世界中から輸入を急増させている状況を明らかにした。第2に、日本と中国の水産物貿易の現状と問題点を整理し、そこにおけるナマコの位置付けを明らかにした。第3に、中国国内のナマコ市場拡大について企業行動を軸として分析を行い、市場拡大の背後にナマコ加工企業の活発な行動があることを明らかにした。自由ではあるが厳しい競争環境の下で企業行動は著しく活性化された状態にあり、多様な新製品や機能性食品などが産み出され、新しい市場の開拓が急速に進んでいる。こうした企業の活発な利益追求活動が、ナマコ市場の急激な拡大のエンジンとなっていることが、本研究により初めて明らかとなった。第4に、そうした中国における活発な企業活動がもたらしたナマコの市場拡大が、グローバル経済を経由して日本の沿岸漁業生産現場にどのような影響をもたらしているのか、を明らかにした。予測しがたい変動性を有する海外市場と日本の沿岸漁業が結びつくことにより、資源利用のあり方や漁業の持続性に大きなリスクが生じることを明らかにした。また、持続的な産地形成と資源利用という公益的目標を実現していくためには、こうした海外市場の動向に短期的に対応しようとする産地経済主体の自由な行動に何らかの制度的規制を設けることが必要であることを示した。

以上の分析結果から、本研究の結論は次の3点となっている。第1に、中国ナマコ市場の拡大は単にマクロ経済動向だけから規定されているのではなく、利益追求行動や競争戦略などこれまでの中国企業には見られなかった活発な資本主義的企業行動が重要な要因の一つとなっている。こうした中国加工企業の利益追求活動が、積極的な国際的原料調達行動を通して日本の沿岸漁業に構造変化をもたらし、資源利用のあり方にも影響を与えている。第2に、グローバリゼーションが深化し、ローカルな資源利用を基盤とした日本の沿岸漁業までが国際市場を対象とした生産活動に傾斜していく状況においては、日本国内からでは把握しにくい新しい不安定性がもたらされている。その不安定性を消去するなんらかのリスク管理策を講じる必要がある。また水産資源利用の適正化と沿岸漁業の持続的展開を実現するためには、輸出市場拡大を視野に入れた迅速かつ柔軟な公的資源管理規制の適用が必要となろう。第3に、こうしたグローバリゼーションの深化によって資源利用とその価値実現過程に不安定性が高まっている状況は、ナマコ対中国輸出だけに限られるものではない。今後も日本の沿岸漁業の持続的展開と適切な資源利用という公益目標を実現していく上では、海外市場動向を規定するこれら海外企業の個別的企業行動を注視していく必要がある。

以上のように、本研究は、グローバル化する現代的な水産物の需給構造を理解する上で、水産物流通における研究に新しい知見及び分析視角をもたらすものである。さらにはグローバリゼーションと国内漁業生産の持続的展開の関係を検証し、そこにおけるリスクを明らかにすることで、今後の水産政策立案に対しても有益な知見を与えるものである。こうした理由から、本論文は博士（水産学）の学位論文として価値を十分に満たしていると考えられる。

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	耿 瑞
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 佐野 雅 昭
	副査 鹿児島大学 准教授 鳥居 享 司
	副査 鹿児島大学 教授 岩 元 泉
	副査 鹿児島大学 教授 秋 山 邦 裕
	副査 鹿児島大学 教授 佐久間 美 明
審査協力者	
実施年月日	平成23年1月17日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) (口答)・筆答	
<p>主査及び副査は、平成23年1月17日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士(水産学)の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏 名	耿 瑞
[質問1]	このような不安定な需要である輸出市場に対応する沿岸資源利用に関する公的な資源管理のあり方としては、どのようなものが相応しいと考えるか？
[回答1]	当研究での調査結果により、輸出の拡大があまりに急激であるため漁業者の自主的管理だけでは資源管理が後手に回り、資源の持続的利用が危うくなることが明らかとなった。漁業者の自主管理に任せるのではなく、国が世界市場を注視しながら責任を持って資源の管理に取り組むべきだと考える。具体的には、沖合漁業で行われているような総量規制である TAC システムを沿岸資源にも導入することが考えられる。
[質問2]	日本産のナマコは中国市場においてどのように評価されているのか。
[回答2]	一般には中国産より高級品として取り扱われている。ただし大連周辺海域のものは中国産でも高級品であり、日本産はそれより劣位にある。大量生産する企業が品揃えとして日本産ナマコを需要する傾向にある。
[質問3]	2008 年以降における日本産ナマコ輸出価格下落の要因は何だと考えるか？
[回答3]	世界同時不況の影響がまず大きく影響しているものと考え。さらに近年では中国国内におけるナマコ養殖が急激に増産しており、供給が拡大しているので価格下落に大きな影響をもたらしている。
[質問4]	カプセルなどの機能性食品などの高次加工品類の価格はどうか。中国市場において一般的商材として普及しているのか？
[回答4]	乾燥品など伝統的加工品は高価であるが、高次加工品は高級品から大衆品まで価格の幅が広い。一部の商品は大衆的商材として生産されており、広範に消費を拡大している。そうした市場の拡大こそが、ナマコ市場全体の拡大をもたらしたものである。
[質問5]	論文中の生産量や輸出量は湿重量か乾重量か？明示されていないため理解しにくい。また「生産量」とは養殖生産を想起させる用語であるが、当論文では「漁獲量」という用語と同じ意味で用いられているように思える。同じ意味で用いているのであれば統一した方がよい。
[回答5]	湿重量と乾重量をそれぞれきちんと表示し、また「生産量」「漁獲量」は「漁獲量」で統一するように、論文中の表現に修正を加えたい。
[質問6]	中国企業の調査内容は輸出拡大期が中心となっており世界同時不況が発生する 2008 年秋以降についてあまり触れられていない。世界同時不況以降における中国企業の動向についての知見はあるか。
[回答6]	ある程度の情報は今も随時入手するように努めているので、可能な限り論文に書き加えたい。新製品の生産拡大は変わっていないと思われるが、現在では養殖生産が拡大しており、その後の日本からの輸入は減少しているようである。
[質問7]	「構造変化」という用語は、農家や漁家における構造的変動を意味することが多い。そうした意味で「構造変化」という用語を用いているのであれば、日本の沿岸漁業産地における漁家の変動についても分析し、記述する必要があるのではないか？
[回答7]	当研究では産地における「構造変化」の内容として、生産様式と資源利用関係における変化を中心に分析を行った。そのため漁家の変動に関しては多くの知見を持ってはいないが、輸出拡大と減少を通じた漁家数の変動や階層分化などに関しても、可能な範囲で論文に追加したい。
[質問8]	日本の輸出拡大に沿って、沿岸漁業の生産様式や資源管理のありかたがどのように変化したのか？漁業種類の拡大や新規参入の拡大はどうであったか？報告されてはいたが、そこをより丁寧に記述すべきである。

[回答8] 論文中にも記述があるが、指摘された点に留意して、より丁寧な説明となるよう修正を加えたい。輸出拡大期には多くの漁業種類がナマコの漁獲に参入し、そこで活動する漁家数も拡大した。そのことが資源管理を困難にしたと考えている。

[質問9] 中国におけるナマコの需要拡大は今後も続くと考えているか？またそうであるなら、その理由は何か？

[回答9] 今後も一定期間は需要拡大が継続するものと考えている。現代の中国市場では目新しい新製品に対する需要が強く、そこに大衆的人気が集中していく傾向がある。報告したとおり、中国の加工企業が活発な新製品開発を続ける限り、需要は拡大を続けるのではないかと考える。また中国の文化においては贈答品が商品として重要な地位を占める。ナマコ製品はこの贈答品市場におけるアイテムとして重要な地位を確立しており、こうした需要も今後安定的に成長するものと考えられる。

[質問10] 中国で加工された後に、日本に環流するような商流が存在するのではないかと？そうであれば日本市場の動向も重要となるが。

[回答10] サバやシロザケに関しては、中国の安価な労働力を利用するための中国委託加工という商流が存在する。確かにナマコにおいても中国から輸入したナマコ加工品を利用している業者が存在する。しかしナマコ加工品に関しては、やはり中国市場が圧倒的に大きな規模を有しており、そのような商流はほとんど無いと考えてよいものと思われる。日本国内は生食が中心であり、加工品の消費はごく僅かであろう。

[質問11] スケールの異なる2つの事項を同じグラフに示す場合には、両者を比較対照する上で誤解を招かないよう工夫をすべきである。

[回答11] 指摘の通り、グラフの作り方を再検討し、修正を加えたい。